



## 2020年11月度住吉小教区評議会議事録

日時・場所 2020年11月21日(土) 9:30~11:12、第2会議室  
出席者：赤波江神父、園長先生、評議員 13名

始めの祈り 赤波江神父

赤波江神父様からのメッセージ

新型コロナウイルス感染、急激に悪化。現在先行き不透明で、クリスマスミサが出来ないかもしれない。アメリカ他のワクチンが希望の光。困難な状況が続くが、悪いことも必ず過ぎ去る。皆で祈りましょう。

星の園幼稚園からの連絡・調整事項

クリスマス行事：2回に分けて開催(聖堂)とサンタクロースのクリスマスの集い  
園児が入る危険：マリア像の後方のさつきの枯れた木の鋭利な枝→営繕チーム作業完了  
雨天時の保護者自転車、西門・中門の溝蓋で滑り、危険→排水を確保しながら対策検討

議事

- 1 待降節、降誕祭、新年ミサ他について(新型コロナ悪化時、教区通達出れば中止)
  - ・イルミネーション、クリスマス飾り付け：11月22日(日)完了
  - ・待降節黙想会、聖体顕示、赦しの秘跡：12月2週頃、平日3日間(検討中)
  - ・主の降誕(夜半)ミサ：12月24日(木)夕方2回(予定)、防寒対策・換気
  - 主の降誕(日中)ミサ：12月25日(金)9:30、何れもパーティ無し。
  - 喜びのシンボルとして子供たちへのプレゼント(カード、お菓子?)検討
  - ・新年ミサ：1月1日(金)11:00
  - ・新成人の祝福(1月10日 日)対象者へ案内
- 2 「すみよし」クリスマス号の件(新型コロナの影響により、1年ぶり発行)
  - ・編集・製本の説明：原稿 公募、プリントパック(外注)承認
- 3 卓球クラブ再開(報告)：現在5名程度、窓換気。密にならないように活動している。
- 4 新型コロナウイルスと共生する教会(教区コロナ対策通達：現在第9次)
  - ・9月19日の評議会以降のミサに参加しての振り返り(意見等)
  - ・日本のカトリック教会における感染症対応ガイドラインについて(11月改訂)
  - ・感染者数が増加傾向にある現状について：教区第10次通達の可能性も
  - ・ミサの前に必ずアルコール消毒を行う。会話は間隔をとり、密にならないように。
  - ・自宅で必ず検温し、平熱を確認してから教会のミサに与ること

- ・教会での飲食禁止（水分補給の時のみ離れてマスクを外し飲むこと）

5 各チーム・委員会の活動について：12月末までに2021年度活動計画案・予算案を財務チーム長に提出すること。

（ポイント）2019年度（案）を参考に、平常年の活動内容で予算を確保すること。  
但し、コロナ感染悪化のため、活動中止の場合は年度末に予算返納。  
備品、設備更新時期等を確認し、予算を立てること。

6 年末援助金：2019年度支出と同じ。但し教区シナピス難民支援献金については、教区シナピス事務局に問い合わせ後、支出。また、芦屋キリスト教協議会については、賛助金振込用紙が未着であり、現在問い合わせ中。用紙到着後、支出。

## 7 その他検討、報告事項

宣教司牧チーム：普段教会へ来られない方へのクリスマスのご案内ハガキ

新型コロナウイルス感染拡大状況を見ながら、送付準備中。

葬儀の場合：神戸中央教会、住吉教会の電話へ連絡（神父様）、信徒：議長・書記

初聖体：リーダー、保護者、子どもの勉強会、コロナ対策の上、検討。離れて座る

営繕チーム：聖堂等清掃 密にならないよう、工夫。高齢化により新参加者募集中

（5）評議会書記：年間行事予定は例年どおり計画作成し、コロナ悪化時、行事中止も。

終わりの祈り 新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のための祈り

☆次回評議会 1月 16日（土）9：30、パウロ三木ホールにて  
2021年度予算案・活動計画案・年間行事予定案 等

---

☆教区典礼研修会（講師 白浜 満 広島司教）動画配信（概要）

2020年10月25日（日）「ミサに集まって祝うことの意味」

（その2）

主の日

神のわざの完成を祝う日

信仰の神秘①主の死を思い→死

②復活をたたえよう→復活

③主が来られるまで→再臨 主の死と復活と再臨によって完成されていく  
→ミサ

イエスの死（ヨハネ福音書第 15 章 23 節、第 4 章 9 節—12 節）

友のために命を捧げる以上の大きな愛はない。

イエスの復活→永遠に続く愛

イエスの再臨→最高の愛をとどける→聖体拝領

神の国の完成が既に始まっている。

教会の共同体的側面（第 2 バチカン公会議後）

教会憲章第 9 条：人々を個別的に→神の家族をつくることを望まれた。

人と触れ合うこと、集うこと、助け合うこと

すべての人一人ひとりにとって救いをもたらす一致の目に見える秘跡となること

典礼憲章：ミサは教会活動の頂点であり、キリスト教生活全体の中心である。

（第 2 部）

コロナ禍はエマオに向かう二人の弟子たちの姿に似ている→少しずつ離れて行く

十字架上で処刑されたイエスから

エルサレムの共同体から

聖書（神のことば）から

パンを割くことから

二人の弟子たちはエマオの宿に泊まらず、エルサレムの共同体に引き返した。

“私たちはイエスの死と復活を見ました”と証言する。

×無教会派は教会共同体を否定。

復活されたイエスの行為（ルカ福音書第 24 章 13 節—35 節）

近づいてきて一緒に歩き始める

対話し、聖書を紐解き教える

パンを取り、賛美の祈りを唱え、割いて渡す

姿を隠した（弟子の中にとどまる）

（エピソード）毒蝮三太夫のスピーチ（老人ホームで笑顔を引き出す）NHKTV 放映  
気にかけること

話しかけること→近づいて言葉をかける、交わす

手をかける→肩に手をおく、背中をたたく→癒す、教わる

☆ミサは主イエスの行い、最高の出会いと似ている。

イエスの働き 先行する

出会い 私たちの応え

主は皆さんとともに→死と復活 人が二人以上集まる所に来られる

また司祭とともに →叙階の秘跡、司祭を通して （その 3 月報 1 月号へ続く）